

おくら 小倉せき

小倉せきは、田畑に水を引くために、今から約400年前に作られました。思川おもいがわに「せき」をつくり、三つの大きな用水路ようすいろに水を流しました。西方にしかたから都賀つがにかけて12の村の田畑をうるおし、「関東の3せき」ともよばれました。

洪水こうずいで何度もせきは流されましたが、そのたびにみんなで力を合わせて修理しゅうりしました。「米どころの西方」と言われるのは、この「小倉せきのおかげ」といわれています。



約80年前につくられた小倉用水路の入り口



西方の昔の主な用水路

年表

1603年ごろ ○西方城じょうしゆ主ぬしの藤田信吉ふじたのぶよしが小倉せきをつくる。

※農業用水のうぎよう・生活用水せいかつ・防火用水ぼうかとして使われる。

1650年ごろ ○洪水こうずいのひ害がいにあわないように、小倉せき近くに

みずしんじゃ
水神社をたてる。

1891年

○小倉せきを守っていくために、^{くみあい}組合をつくる。

※洪水で流されず、^{みずぶそく}水不足にもならないりっぱな
せきをつくろうと話し合う。

1931年

○村人が^{きょうりよく}協力して、しっかりとした小倉せきの
取り入れ口をつくる。

※^{むかし}昔ながらのやり方ではなく、どんな洪水にもた
えられるじょうぶなものにつくりかえるために、
^{けん}県に^{じょ}えん助をおねがいする。

1951年

○国や県のえん助を受けて、^{こうじ}工事が始まる。

1953年

○今の小倉せきが^{かんせい}完成する。



※その後、せきのまわりをつくりなおし、ますます
りっぱなものにした。

1979年～

○^{おおがたきかい}大型機械での^{さぎょう}作業をしやすくするために、田畑

2003年

の形を整える（^{くかくせいり}区画整理）。いっしょに^{ようすいろ}用水路も

整理する。

